

次期公的年金シミュレーターについて

1 次期公的年金シミュレーターの開発経緯と概要

現行の公的年金シミュレーターの概要

第18回社会保障審議会年金部会
2024年9月20日

資料4
(一部改変)

- 公的年金シミュレーターは、令和2年改正年金法を分かりやすく周知すること、働き方や暮らし方の変化に伴う年金額の変化を「見える化」することを目的として、令和4年4月から運用を開始した。
- ねんきん定期便の二次元コードを読み取るなどして将来の年金受給見込額を簡単に試算でき、働き方や暮らし方の変化に応じた年金額の変化も試算できる。令和5年4月に年金受給開始時点での税や保険料の大まかなイメージを表示する機能を追加し、同年7月には民間サービスとの連携に向けたプログラムを公開、令和6年1月には在職定時改定の試算機能を追加した。
- 公的年金シミュレーターを利用して、実際に試算を行った回数は令和7年3月末時点で761万回超。

■ 公的年金シミュレーターの特徴

【簡単でスムーズな操作性】

- ・ ID・パスワードは不要で、すぐに試算を始めることができる。
- ・ 「ねんきん定期便」の二次元コードを利用すれば、よりスムーズに入力が可能。

【グラフを表示しながら試算できる】

- ・ スライドバーを動かすと年金額の変化が一目で分かる。

【データ管理も安心・安全】

- ・ 個人情報記録は記録、保存されない。

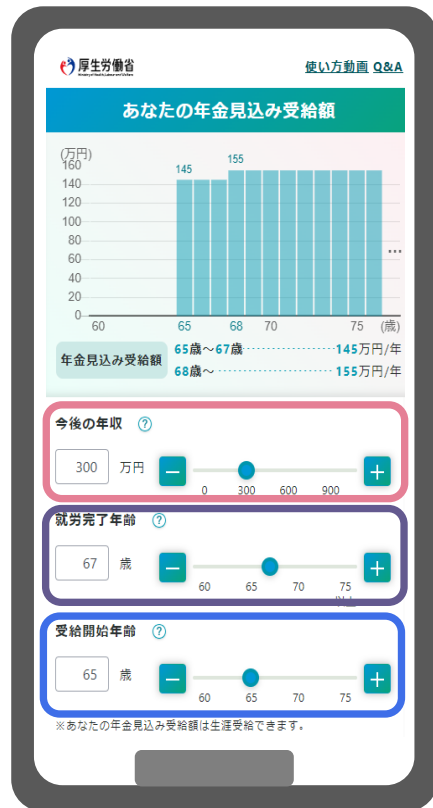


■ 公的年金シミュレーターの使い方



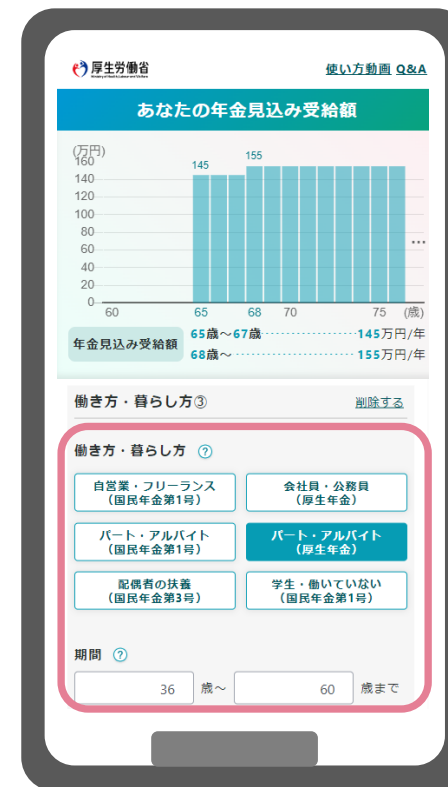
現行の公的年金シミュレーターによる将来の年金見込み受給額試算について

「公的年金シミュレーター」は、将来受け取る年金見込み受給額を固定して表示するだけではなく、個々人の働き方暮らし方の変化による多様なライフコースに応じた様々なパターンの年金見込み受給額を簡単な入力で試算・表示することが可能。



年金見込み受給額試算の結果についてはグラフ及び数字で表現され、グラフ直下にあるスライドバーを動かすと年金額がリアルタイムに変化し、一目でわかる。

将来受け取る年金見込み受給額を決定する3つの重要要素である「今後の年収」、「就労完了年齢」、「受給開始年齢」を変更することにより、将来受け取る年金額の増減を簡単に試算することが可能。



個々人の働き方・暮らし方による多様なライフコースに対応するため、働き方・暮らし方、働く期間、年収を直接入力し変更することにより、年金見込み受給額を試算することが可能。

(注) 公的年金シミュレーターは、年金額を簡易に試算することを目的としており、実際の年金額とは必ずしも一致しません。より正確な年金見込み額の確認をする場合には、日本年金機構の「ねんきんネット」の活用をご検討ください。

令和4年4月から運用している現行の公的年金シミュレーターの保守、運用が令和7年度末で終了することから、年金部会などでのご意見を踏まえ、以下の案により、令和8年4月から新たに運用を開始する予定の「次期公的年金シミュレーター」の開発を進めることとしてはどうか。

次期公的年金シミュレーターの開発方針（案）

- 次期公的年金シミュレーターは、現行の考え方を継承しつつ、
 - 年金の仕組みや制度改正の内容を国民に分かりやすく周知すること
 - 働き方などの変化に伴う年金額の変化を「見える化」し、国民一人一人の生活設計を支援することを目的として運用することとし、そのために必要な機能を装備する。
- 公的年金シミュレーターの利用をさらに促進するため、手軽に利用できる、円滑に操作できる、画面が見やすいといった現行の特徴を維持する。個人情報記録や保存を行わず、IDパスワードを用いないことも現行どおりとする。

次期公的年金シミュレーターの機能（案）

- 老齢年金については、現行の機能を維持する。さらに改善や追加を行うべき機能がないか、検討する。
 - 【老齢年金に関する現行の主な機能】
 - ・ ねんきん定期便の二次元コードを読み取るなどして、将来の老齢年金の受給見込額を簡単に試算する機能
 - ・ 働き方（被保険者種別や収入）の変化、繰上げ受給や繰下げ受給の選択などによる年金受給見込額の変化を試算する機能
 - ・ 在職老齢年金や在職定時改定による年金額の変化を試算する機能、年金にかかる税や社会保険料を試算する機能
- 現行の老齢年金に加えて、障害年金等の試算機能、iDeCoの試算機能を追加する。
- 新たな試算機能の追加にあたっては、障害年金等、iDeCoの基本的な仕組みや特徴を分かりやすく国民に周知するとともに、生活設計に役立つように年金額を「見える化」することを目的として、できる限り簡素で使いやすい設計にする。

次期公的年金シミュレーターの新たな機能を設ける目的

第18回社会保障審議会年金部会
2024年9月20日

資料 4

障害年金の試算機能を設ける目的（案）

- 公的年金には老齢年金だけでなく障害年金等^(注)があり、予測できないリスクに備えるための生涯を通じた保険であることについて、若い世代を中心として理解を促す。
- 障害年金については、老齢年金と異なり最低保障機能^(※)があること、一方で、保険料納付などの受給要件を満たす必要があることの理解を促す。
- ※ 障害年金は、一定の支給要件を満たした場合、障害基礎年金（2級）については、保険料納付期間にかかわらず老齢基礎年金満額（40年加入）と同額が支給され、障害厚生年金については、被保険者期間が300月（25年）未満で300月とみなして年金額が計算される。また、障害が重い場合（1級）には年金額が1.25倍になる。

（注）遺族年金については、障害年金より制度が複雑なため、利用者のモバイル端末の性能や試算機能の使いやすさ等を踏まえ、どのような試算機能を追加し得るかについて検討する。

iDeCoの試算機能を設ける目的（案）

- 私的年金のうち、すべての国民年金被保険者が加入できる共通の制度であるiDeCoについて、仕組みや特徴を国民に周知し、試算額を「見える化」することで、iDeCoの利活用の際の参考にしてもらうことを目的とする。
- iDeCoの利用に至っていない方や十分に活用できていない方を主な対象として想定し、シミュレーターの試算機能を使うことにより、iDeCo利活用の具体的なイメージを持ってもらう。

（注）企業年金は、事業主ごとに設計等が異なることから、統一的に表示できるiDeCoについてまず対応することとする。

社会保障審議会年金部会における議論の整理（令和6年12月25日）

Ⅲ 年金広報・年金教育の概要①

■ 年金広報のあり方

- ・ 特に若い世代には公的年金制度に対する漠然とした不安があり、これが公的年金制度への信頼を揺るがすことにつながっている。
- ・ 様々な属性の方がいることを念頭に置きながら、動画やSNSの活用など、受け手に応じた情報発信の工夫が必要である。
- ・ 年金額分布推計や公的年金シミュレーターは、国民一人一人が自分の将来に対する予見可能性を高めるものとして重要な機能を持っている。

■ 公的年金シミュレーター

- ・ 公的年金シミュレーターは、徐々に国民に浸透しつつあるが、さらに多くの国民に活用してもらうよう、積極的に周知していくべきである。
- ・ 公的年金シミュレーターについて、現行の機能や特徴を維持しつつ、改善や機能追加を検討すべきであり、障害年金に加え、iDeCoの試算機能を設ける方向性は賛成の意見が多かった。また、iDeCoの拠出可能額をわかるようにすべきという意見もあった。
- ・ 一方で、iDeCoの試算機能を設けるに当たっては、運用利回りをどう設定するか、賃金・物価で変動する公的年金とiDeCoの給付額をどう表示するかなど課題も多いことから、誤解が生じないような画面構成にするなど慎重な検討が必要である。
- ・ 民間サービスとの連携もさらに進めていくべきである。

■ 多様なライフコースに応じた年金の給付水準の示し方

- ・ 世帯類型や賃金水準などに着目し、様々なパターンの年金額をわかりやすく示す必要がある。
- ・ 性別や年金制度の加入状況に応じた将来の年金の給付水準の示し方について、年金額分布推計を基にしていることも踏まえて、発信内容を精査しつつ、実際の広報につなげていく。

2 次期公的年金シミュレーターの開発方針と新たな機能

ひと、くらし、みらいのために

次期公的年金シミュレーターのイメージ①

次期公的年金シミュレーターは、老齢年金、障害年金、iDeCoの基本的な仕組みや特徴を国民に周知するため、現行の公的年金シミュレーターよりも快適な操作性を確保するとともに、分かりやすく伝わるような工夫を行う。

デザインの具体例

ファーストビューに主の試算情報を
レイアウトし直観的な操作を実現



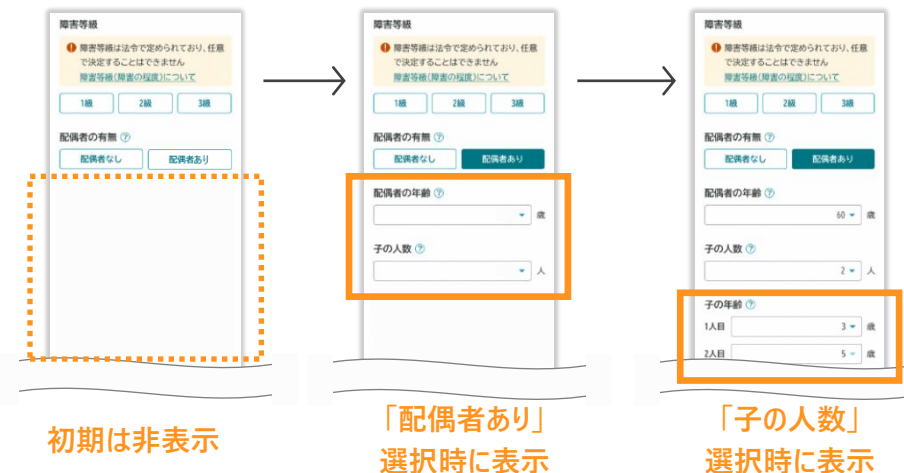
より直観的なデザインにするため、グラフとコントロールを(スマートフォンでの)ファーストビューに収め、シミュレーションの自由度を高めるともにかつ操作性を向上させるデザインを検討する

各種スライダーが
ファーストビューに収まるように
レイアウト

デザインの具体例

段階的な表示によるUXの向上

公的年金シミュレーターのコンセプトは「パツと試算できる」ことにある。現在のインターフェースは年金試算を実施するため、入力項目が一度に多く表示されることにより、煩雑に感じる傾向がある。そこで、入力時点における初期情報量を抑制したシンプルな構成とし、入力のナビゲーションを向上し情報入力の手軽さを減らすとともに、エラーの軽減を図る検討を行う。



初期は非表示

「配偶者あり」
選択時に表示

「子の人数」
選択時に表示

次期公的年金シミュレーターのイメージ②

デザインの具体例

簡潔・丁寧な表現に見直すことで

年金制度への理解促進を実現

現行

期間 ②

税や保険料を控除する前の個人の年収（賞与を含む）を入力してください。

年収 ③

① 0～990の範囲内で入力してください。

1000 万円

表現の検討(案)

上記期間内の年収の平均額を入力してください。
年収額は税や保険料を控除する前の個人の年収（賞与を含む）となります。
[Q&A「年収の入力方法について」](#)

期間内の平均年収

① 本サービスにおいては平均年収990万を超える際のシミュレーションはできません。
0～990の範囲内でご入力いただくか、[ねんきんねっと](#)でのシミュレーションしてください。

年金制度に詳しくない利用者に向けて、可能な限り分かりやすく丁寧な表現にブラッシュアップすることを通じて、制度への理解促進を図るとともに将来への安心感の醸成につながるよう工夫を行う。

また、エラーメッセージについては入力方法の案内のみではなく、エラー事象、原因も含めて併記することで年金制度への理解促進を図る。

デザインの具体例

アクセス元の違い(QRコード・Web)によりUIを制御することによる

ユーザーに適した情報の提示

QRコードから
遷移した場合の画面



Webから
遷移した場合の画面



QRコードを読み込んでアクセスした時と通常のWebからアクセスした時の必要な情報が異なるため、それぞれに応じて情報のコントロールやインタラクションの制御を行います。

例えばQRコードを読み込んだ際の「ねんきん定期便をお持ちの方」の情報や、Webからアクセスした際の試算画面におけるグラフの非表示等、ユーザーの状況に応じた操作性を提供できるよう検討する。

ユーザーのニーズを的確に把握した開発の実施

1

直観的で“使いやすい”操作感の提供

現行のシンプルかつ軽快な操作感を踏襲し、シミュレーション操作の高いユーザビリティを検討

2

ユーザーを迷わせないシンプルな操作性

情報量の制御やナビゲーション等、ユーザーが迷わず操作できるような仕掛けを用い入力ナビゲーションの向上、及びエラーの軽減を検討

3

年金制度への理解の促進

文言やガイドに簡易・かつ丁寧な表現を用いることで、年金制度に対する理解を促すことを検討

4

アクセス手段に応じた情報のコントロール

QRコードからアクセスした際とWebからアクセスした際は操作体系が異なることからそれらに適した要素の配置を制御し操作性の向上を検討

幅広い層（利用者からFPまで）にリサーチを実施

User

①Webアンケート

広範囲に、かつ多くの人数に対して意見を定量的に収集し全体の傾向を把握

②デプスインタビュー

それぞれのターゲットユーザーに対しインタビューを行い、“深く”操作性を評価

③ヒューリスティック評価

UI/UXデザイナーの経験則に基づき、操作性に関する問題点を抽出

④フィジビリティ評価

ファイナンシャルプランナーの観点からシミュレーションや運用上に問題が無いかを評価

Professional

リサーチの結果

直観的で分かりやすいデザイン

(年金制度に詳しくない方に対して)
分かりやすいガイドや文言の採用

リアルタイムフィードバックが可能なシミュレーションの実現

スマートデバイスでの入力のしやすさ

エラーへの理解促進と適切な回避

シンプルな操作性

QRコード、Webそれぞれのアクセス
元に適した情報の配置

4つの
コンセプトを抽出

あるべき姿
ToBe

現状の姿
AsIs